

写真-19 Berberati県病院のベッド
木造ベッドを使用している。

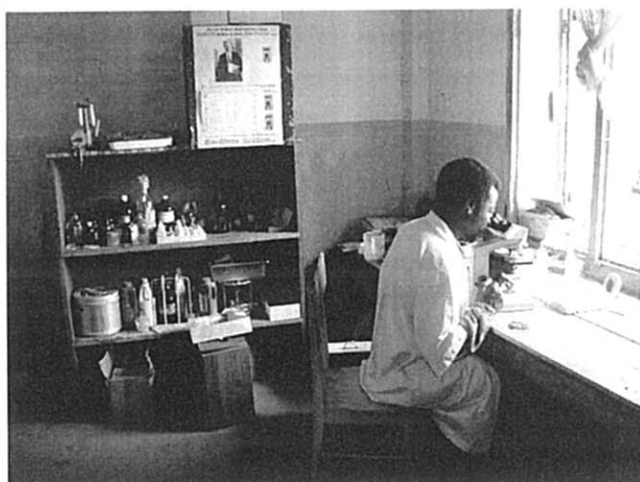


写真-20 Baoro郡病院の臨床検査室
ラボテクニシャンは1名(看護師)、簡易な臨床検査を行っている。顕微鏡は、仏国NGOが1996年に供与したものである。試薬等の不足が顕著である。



写真-21 Baoro郡病院の産婦人科
老朽化した、診察台のみある。ベッドもマットレスがない。病院では1名の医者と数名の看護師により治療がなされている。



写真-22 Baoro郡病院の手術室
電気がないため、電気系の機材はない。酸素ポンプはあるが、パンギの酸素会社が閉鎖したため、酸素の供給がストップしている。手術器具も不足している。



写真-23 Baoro郡病院にある冷蔵庫
予防接種用に日本のマルチバイ協力により1998年に供与された。電気がないためアブソープションタイプ(石油)である。



写真-24 Baoro郡病院の発電機
2000年にEUより供与された。それ以前、電源(公共配電)は全くなかった。

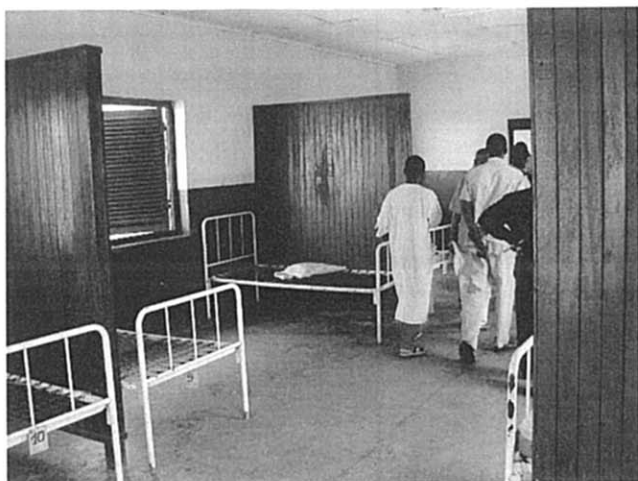


写真-25 Bossenbele郡病院のベッド
ほとんど骨組みのみで、マットレスはない。毛布等は、患者が自前で持ちこむ。多くのベッドは老朽化・故障している。状況は全国どの病院も同様である。



写真-26 Bossenbele郡病院の庭
使い終わったワクチン入れや採決針(ランセット)が放置されている。降雨での地表流によりさらに、分散する。

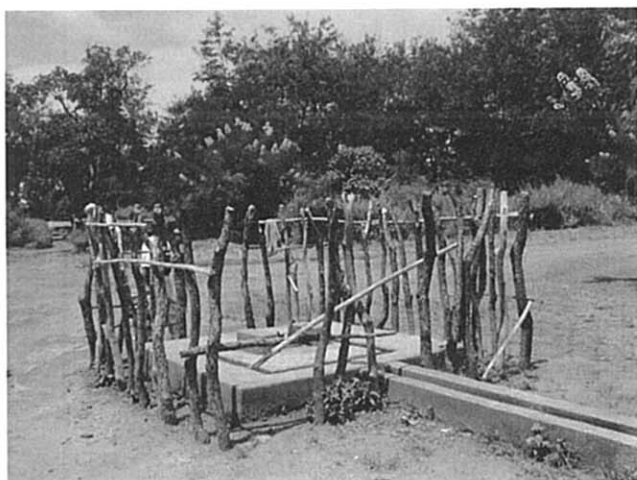


写真-27 Bossenbele郡病院の水源
施設から150m程のところにある井戸が唯一の水源である。



写真-28 Bossenbele郡病院で使用している身長計
手作りの木製である。簡易な保健器具も不足している。

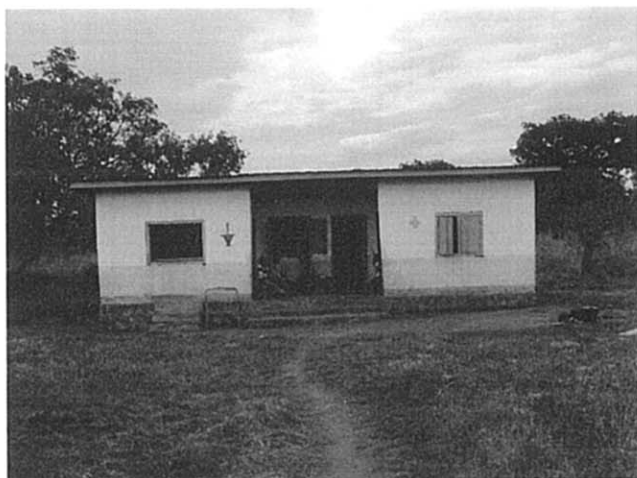


写真-29 Bouyaembeヘルスポストの外観
政府および上位病院からの支援がないため、地域住民により運営されている。

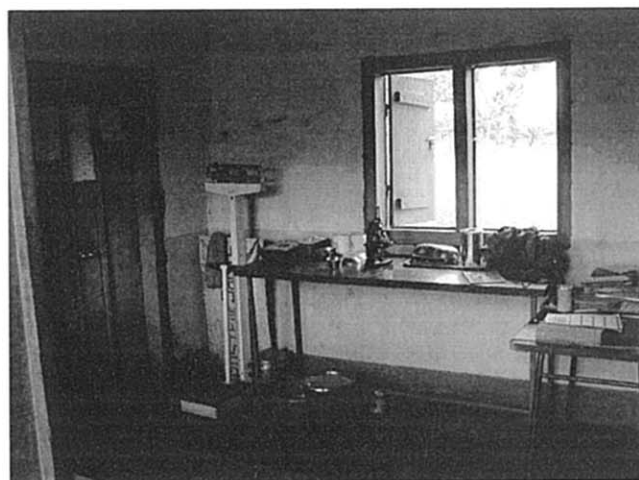


写真-30 Bouyaembeヘルスポストの処置具
Unicefから供与された簡易な医療器具を所有するのみである。予防接種も実施している。

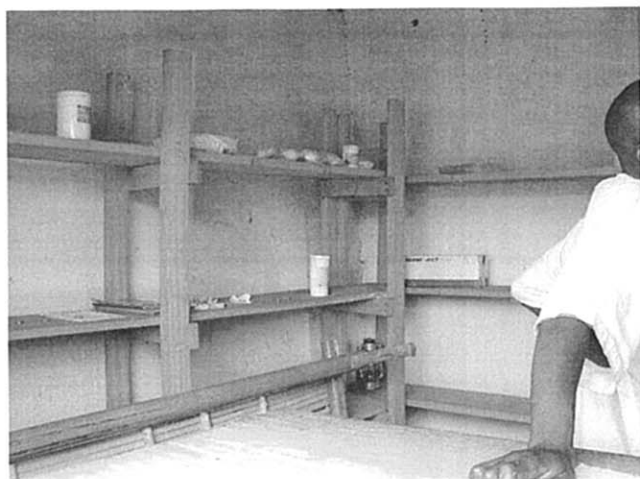


写真-31 Bouyaembeヘルスポストの薬局
政府および上位病院からの支援がないため、在庫が乏しい。薬は、直接マーケットや上位の病院へ買いに行く。



写真-32 Bouyaembeヘルスポストの水源
近くに井戸施設がないため、1km程度はなれた沼から採水し煮沸したから使用している。

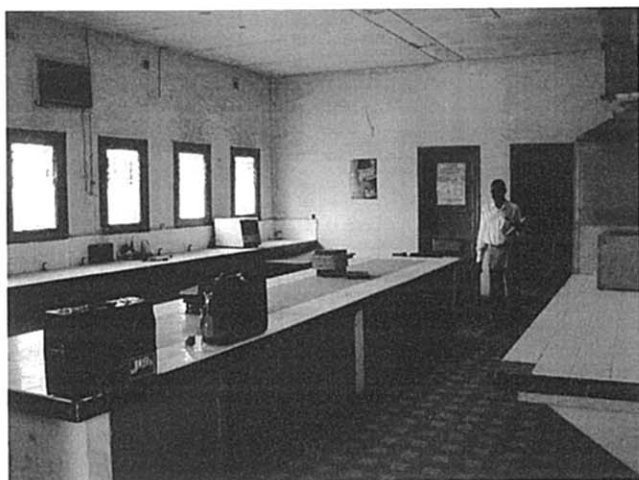


写真-33 保健省の臨床検査室
主にマラリア対策を中心としたラボであるが、検査機材はほとんどない。

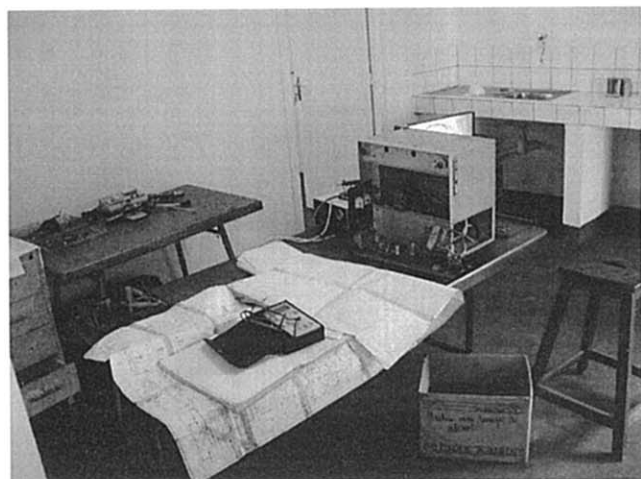


写真-34 保健省医療機材メンテナンス課
3名のエンジニアがおり、全国の病院機材をカバーしている。しかし、予算がなく修理部品もないため、事実上大きな修理作業はできていない。



写真-35 保健省のワクチン倉庫
個々から全国の病院に配布される。1990年にUSAIDにより建設され、その後Unicefにより修復された。



写真-36 ワクチン倉庫にあるコールドチェンおよびワクチン①
現在実施しているワクチンの多くは日本政府のマルチバイ協力により調達されたものである。

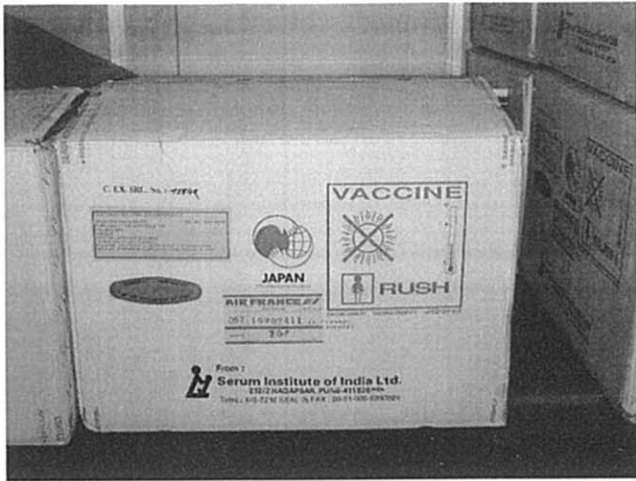


写真-37 ワクチン倉庫にあるワクチン②



写真-38 全国一斉予防接種開催のためのセミナー
2000年11月および12月に実施される予防接種拡大計画に併せ全国より88名の医療関係者が参加した。

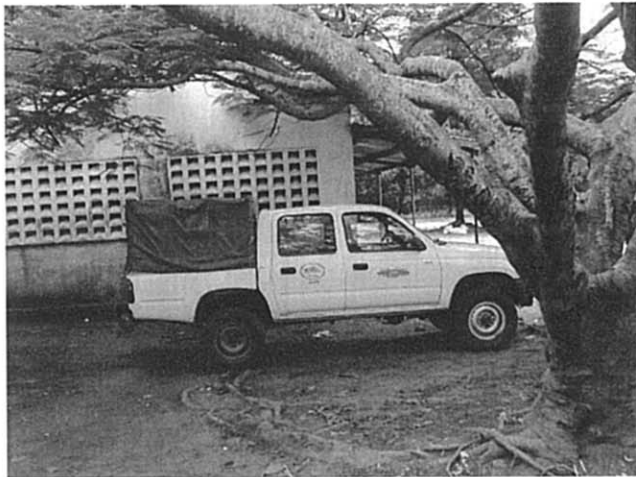


写真-39 予防接種の啓蒙活動に活用されているピックアップトラック
1998年の日本政府によるマルチバイ協力で調達されたものである。
使用状況は良好である。



写真-40 国道3号線①
内陸国である「中ア」唯一の輸出入道路であり、カメルーン国ドゥアラ港に通じている。現在、日本の無償資金協力で完全舗装化が図られているが、現在一部区間で未舗装である。2002年に全面舗装化される予定である。



写真-41 国道3号線②
未舗装区間は、降雨により侵食され、わだちが発生し交通障害を引き起こす。